

平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成29年7月31日

上場会社名 株式会社ホットマン 上場取引所 東
 コード番号 3190 URL http://www.yg-hotman.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 伊藤 信幸
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 柳田 聡 TEL 022-243-5091
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の業績 (平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	4,899	—	194	—	213	—	136	—
29年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	19.39	—
29年3月期第1四半期	—	—

(注) 当社は平成29年3月期第3四半期より四半期財務諸表を作成しているため、平成29年3月期第1四半期の記載及び平成30年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率の記載をしております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	13,835	5,886	42.5	834.24
29年3月期	14,100	5,807	41.2	823.16

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 5,886百万円 29年3月期 5,807百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期 (予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の業績予想 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	8,720	1.1	△350	—	△330	—	△240	—	△34.02
通期	20,170	0.5	220	14.9	270	2.9	130	56.3	18.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	7,275,500株	29年3月期	7,275,500株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	220,000株	29年3月期	220,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	7,055,500株	29年3月期1Q	7,131,386株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（連結財務諸表について）

当社は、平成28年10月12日付で、連結子会社であった株式会社多賀城葛屋書店の全株式を譲渡したことにより連結子会社が存在しなくなったため、前第3四半期決算より連結財務諸表を作成しておりません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における我が国の経済環境は、雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな回復基調で推移したものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要もあり、景気の先行きにつきましては依然として不透明な状況が続いております。

当社の出店エリアにおきましても、個人消費が伸び悩む中、主たる事業であるイエローハット事業では、2期連続の暖冬により、当社が得意としてきた高粗利である冬季用品の販売が低迷しており、気候に影響されない安定した収益体質の構築が最優先課題となっております。

そのような環境の中、当社におきましては、会社方針に『「良樹細根」根が細かく深く張っている木の枝葉はみごとに生い茂った良い木になる。』を掲げ、挨拶をはじめとした基本の徹底並びに事業ごとに設定した施策による粗利の向上をはかって参りました。

当第1四半期累計期間内の出退店はありませぬ。当第1四半期会計期間末の店舗数は、イエローハットが85店舗、TSUTAYAが9店舗、アップガレージが7店舗、カーセブンが3店舗、ダイソーが2店舗、自遊空間が1店舗、宝くじ売場が5店舗、セガが1店舗の合計113店舗となっております。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高は4,899百万円、経常利益は213百万円、四半期純利益は136百万円となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

[イエローハット]

当社の主たる事業であるイエローハット事業におきましては、車検獲得の強化を通じ、関連するタイヤ販売やオイル交換件数の増加をはかると共に、ポリマー、钣金等のカーメンテナンス工賃収入の増加等、気候に影響されない安定した利益を確保することに注力して参りました。また、春先まで寒い日が続いたことに伴い夏タイヤの需要が4月に集中し、売上高は順調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高3,868百万円、セグメント利益（営業利益）は254百万円となっております。

[TSUTAYA]

TSUTAYA事業におきましては、主力である書籍の品揃え及び販売の強化を実施し、顧客の利便性とリピート率の向上に注力して参りましたが、売上高は低調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高555百万円、セグメント損失（営業損失）は6百万円となっております。

[アップガレージ]

アップガレージ事業におきましては、中古カー用品の買取強化を実施し、顧客のニーズにあった在庫の確保に注力し、売上高は順調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高255百万円、セグメント利益（営業利益）は22百万円となっております。

[その他]

ダイソー事業、カーセブン事業、保険事業並びに不動産賃貸事業におきましては、売上高は順調に推移致しました。

自遊空間事業、宝くじ事業におきましては、売上高は低調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高219百万円、セグメント利益（営業利益）は21百万円となっております。

なお、当社は前第3四半期累計期間より非連結決算に移行したことから、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりませぬ。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は211百万円減少し、7,022百万円(前事業年度末7,233百万円)となっております。これは主に、現金及び預金が493百万円増加したものの、売掛金が75百万円、商品が175百万円及び未収入金(その他の流動資産)が392百万円減少したことによるものであります。

また、固定資産の残高は53百万円減少し、6,813百万円(前事業年度末6,866百万円)となっております。これは主に、建物が38百万円、敷金及び保証金(投資その他の資産)が17百万円減少したことによるものであります。

この結果、資産合計残高は13,835百万円(前事業年度末14,100百万円)となっております。

② 負債

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は388百万円減少し、4,752百万円(前事業年度末5,140百万円)となっております。これは主に、買掛金が408百万円減少したことによるものであります。

また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は45百万円増加し、3,197百万円(前事業年度末3,151百万円)となっております。これは主に、長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は7,949百万円(前事業年度末8,292百万円)となっております。

③ 純資産

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は78百万円増加し、5,886百万円(前事業年度末5,807百万円)となっております。これは主に、四半期純利益を136百万円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月9日の「平成29年3月期 決算短信」で公表致しました第2四半期及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	768,725	1,262,631
売掛金	452,971	377,682
商品	4,948,132	4,772,859
貯蔵品	1,948	2,195
その他	1,061,796	607,186
貸倒引当金	△88	△69
流動資産合計	7,233,485	7,022,485
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,443,102	2,404,750
土地	1,801,214	1,801,214
その他(純額)	484,956	486,446
有形固定資産合計	4,729,273	4,692,411
無形固定資産	42,922	39,527
投資その他の資産	2,094,394	2,081,358
固定資産合計	6,866,590	6,813,297
資産合計	14,100,075	13,835,783
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,109,336	700,758
短期借入金	2,150,000	2,150,000
1年内返済予定の長期借入金	892,500	872,630
未払法人税等	121,795	23,316
賞与引当金	81,666	15,000
ポイント引当金	242,627	248,895
その他	542,498	741,777
流動負債合計	5,140,426	4,752,379
固定負債		
長期借入金	1,648,550	1,681,421
退職給付引当金	995,123	1,014,821
役員退職慰労引当金	137,230	138,270
資産除去債務	146,158	146,912
その他	224,780	215,970
固定負債合計	3,151,842	3,197,395
負債合計	8,292,268	7,949,774
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,910,645	1,910,645
資本剰余金	500,645	500,645
利益剰余金	3,374,575	3,440,825
自己株式	△108,380	△108,380
株主資本合計	5,677,486	5,743,735
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	130,320	142,272
評価・換算差額等合計	130,320	142,272
純資産合計	5,807,807	5,886,008
負債純資産合計	14,100,075	13,835,783

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	4,899,168
売上原価	2,621,351
売上総利益	2,277,817
販売費及び一般管理費	2,083,805
営業利益	194,011
営業外収益	
受取手数料	8,013
産業廃棄物収入	6,932
その他	15,101
営業外収益合計	30,047
営業外費用	
支払利息	9,092
その他	1,764
営業外費用合計	10,857
経常利益	213,200
特別損失	
固定資産除却損	0
特別損失合計	0
税引前四半期純利益	213,200
法人税、住民税及び事業税	9,298
法人税等調整額	67,098
法人税等合計	76,396
四半期純利益	136,804

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	イエローハ ット	TSUTAYA	アップガレ ージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	3,868,991	555,357	255,690	4,680,039	219,128	4,899,168	—	4,899,168
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	1,683	331	168	2,184	5,464	7,649	△7,649	—
計	3,870,675	555,689	255,858	4,682,224	224,593	4,906,817	△7,649	4,899,168
セグメント利益 又は損失(△)	254,384	△6,087	22,741	271,039	21,988	293,027	△99,015	194,011

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、自遊空間事業及び保険収入等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△99,015千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。